

## 説教余滴 2018年8月5日、平和を象徴するオリーブ

去る7月19日、〈花森〉の若社長が夏のご挨拶においでくださいました。お持ち下さったのが、オリーブの一鉢。教会にはご縁の深い木と伺いましたから、とのことでした。

ありがたく頂戴して、表階段の中ごろに置きました。御覧ください。

オリーブの木は、モクセイ科オリーブ属の植物で、樹高6 - 10mの常緑樹で、インテリアとして人気があります。オリーブの木は500種類以上の品種が存在し、原産地は北アフリカ、地中海、西アジアと様々な説があります。

3 - 4年で実がなり、樹齢も300 - 400年に及び、中には1000年以上のものもあると言われています。春に白い花を房状に咲かせ、果実は緑から黒くなります。その実が食用となり、オリーブ油となります。オリーブ油は食用、薬用、また儀式用に用いられ、神々の木と崇められました。

オリーブは、聖書に151回ほど出、聖書における最もポピュラーな植物のひとつです。

聖書では、大洪水の後放たれた鳩が、ノアの所にオリーブの葉をくわえてきたとあり（創8：11）、オリーブをくわえた鳩は平和のシンボルとされました。荒れ狂う洪水が収まり、再び平和が訪れた、と告げる使者として、オリーブと鳩が描かれました。方舟は、トルコのアララト山に漂着したとされていますが、トルコもまたオリーブの産地です。平和を希求する国際連合の旗も、オリーブの枝葉が地球を取り囲むデザインになっています。

また、イエスが最後の夜を過ごされたオリーブ山は、文字通りオリーブ畑でした。そこのゲッセマネの園で祈られましたが（ルカ22：39-46）、ゲッセマネというのは「油しぼり」という意味で、ここでオリーブ油が作られていたのです。オリーブは、イスラエルを祝福する7つの産物のひとつとされ、神の祝福と繁栄の象徴でもありました（詩52：10）。